

令和2(2020)年度 病害虫発生予報 第1号

令和2(2020)年4月20日
栃木県農業環境指導センター

天候の変化に注意し、病害虫の発生増加を防ぎましょう！

予想期間 4月下旬～5月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比74%：ほ場率、平年比46%：株率)。(±)
・ 向こう1か月の気温は平年並または低く、日照時間は多い見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 気門封鎖剤を活用するとともに、化学農薬のローテーション散布を行うことで抵抗性の発達を抑制する。
・ 気門封鎖剤は、5日程度の間隔をおき複数回散布する。
・ 葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比73%：ほ場率、平年比63%：花率)。(±)
・ 向こう1か月の気温は平年並または低く、日照時間は多い見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 低密度のうちにカウンター乳剤等の IGR 剤を散布する。
・ 花を観察して、1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、ディアナ SC 等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース No. 12](#)、[アザミウマ類薬剤感受性検定結果](#)、[続報](#)を当センターHPに掲載中。

3 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比136%：ほ場率、平年比76%：株率)。(±)
・ 向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は多い見込み。(－)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないよう換気に努めるとともに、かん水量に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いて通風を図る。
・ 発病葉、発病果や花卉は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・ 予防を主体にフルピカフロアブル等を葉裏にもよくかかるよう散布する。発生が見られたらピクシオ DF 等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病菌薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト 黄化葉巻病 (TYLCV)

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(平年比261%：ほ場率、平年比340%：株率)。(＋)
・ 向こう1か月の気温は平年並または低く、日照時間は多い見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ウイルスを媒介するタバココナジラミの侵入と飛散を防ぐ。ハウスの開口部(出入り口、窓、天窗)に0.4mm以下のネットを張り、特に出入り口は2重にする。
・ 黄色粘着板を設置して媒介虫の捕殺と発生状況の把握を行い、コナジラミが見られた時はアネキ乳剤等を散布する。
・ 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ビニール袋などで密封し枯死させてから処分する。
- (4) 備 考 ・ [No. 22 トマト黄化葉巻病](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 きゅうり べと病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量が多い（平年比 240%：ほ場率、平年比 232%：株率）。（+）
 ・ 向こう 1 か月の降水量は平年並、日照時間は多い見込み。（-）
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないよう換気に努めるとともに、かん水量に注意する。
 ・ 草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
 ・ 予防を主体に銅剤やダコニール 1000 等を散布する。発病が見られるほ場では、治療効果のあるリドミルゴールド MZ 等を散布する。
- (4) 備 考 [キュウリべと病菌薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	灰色かび病	少	少	きゅうり	うどんこ病	平年並	平年並
	うどんこ病	やや少	やや少		アザミウマ類	やや多	やや多
	アブラムシ類	平年並	平年並	たまねぎ	べと病	平年並	平年並
トマト	葉かび病	平年並	やや少	きく	アザミウマ類	やや多	やや多

春の病害虫防除対策

○麦類赤かび病

出穂や開花状況をよく観察して、適期に赤かび病防除を行いましょ。 [植物防疫ニュース No. 13](#) を当センターHPに掲載中。

○いちご親株床

親株定植の準備を万全にし、親株に病害虫の発生がないかよく確認して定植しましょ。また、本ぼと親株床の管理作業を分け、本ぼからの病害虫の持ち込みを避けましょ。

○きゅうり・きく アザミウマ類

気温の上昇に伴い、施設内で越冬したアザミウマ類が増加するおそれがあります。特に、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病を媒介し、ミカンキイロアザミウマはキク茎えそ病、キクえそ病を媒介します。ほ場内をよく観察し、早期防除を心がけましょ。病害虫防除対策のポイント [No. 10 キュウリ黄化えそ病](#)を当センターHPに掲載中。

○なし 黒星病

一次伝染時期となるりん片脱落期から開花後は最重要防除時期です。果そう基部病斑(芽基部病斑)の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に治療効果があるDMI剤を散布しましょ。また、開花期から展葉初期に降雨が多く、開花から2週間以内に黒星病の発生が散見される場合は、多発の危険がありますので注意しましょ。

ORACコードを参考に、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょ。

○花粉媒介昆虫(ミツバチ、マルハナバチ)や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょ。

ミツバチ・天敵等に対する農薬の影響の目安①、②、③を栃木県農作物等病害虫雑草防除指針 参考資料に掲載中。 <http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/tochigi>

○農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょ。

1か月気象予報（予報期間4月18日から5月17日 4月16日気象庁発表）

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、低い確率60%です。2週目は、低い確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	40%	40%	20%
降水量	30%	40%	30%
日照時間	30%	30%	40%

詳しくは農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。